

ねんりんピック2012宮城・仙台 監督日誌 (H24.11.12)

文責 静岡県選手団 監督 後藤 徹

やりました。やってくれました。全国5位入賞です。たまげたなーもう !!

出発から開会式まで

三島駅集合。こだま号にて東京へ。特別臨時新幹線「元気・ねんりんピック号」の車内で伊達様の家臣から歓迎を受ける。仙台駅からは輸送バスで山間部へ。仙台の奥座敷「秋保温泉」宿泊。明日への意気込みを、名湯にて養う。

宿舎から会場までは1時間。最も近い場所で下車。助かるね。手荷物を預けて、選手集合所に整列。子供たちと交流会が開かれ、元気を貰う。笑顔と足並みを揃えて堂々の行進。フィールドに腰を降ろして、式典は粛々と進む。アトラクションを十分楽しんでから、ダンス選手諸君はJR仙石線にて仙台駅へ向かい宿舎へ。ビジネスホテルのシングル部屋にエキストラベットを入れてツインにしてあるのでかなり狭いが、市内中心部なのだからまあ仕方ないか。

大会当日

仙台市実行委の対応は見事であった。宿舎まで迎えに来てくれるし、地下鉄駅にも道路にも係員があふれるほどに配置され、迷うことなく会場到着。

更衣場所も広いし、警備員も配備され安心感いっぱい。入場行進はカツプルごとに場内一周。多いに存在をアピール。

定刻どおりにチャチャの予選から競技開始。2面使用で審査員が3名づつのため、アピール不足が目立ったが、結局ラテン種目は準決まで頑張っていた。

スタンダードに入ると、場馴れしたエース級が出場し、一味違う踊りを見せつけられた。みんな必死に食い下がり、こちら準決勝まで進んだ組がいた。

団体戦は49チーム。ここでハプニング発生。なんと我々はリダンスに廻ってしまった。優勝候補を含めた組がリダンスを踊り始めて10秒後曲が止まる。なんと1次のクリア組がそっくりリダンスに廻っていたのだ。仕切り直しで競技再開。このことが発奮材料になったのかも知れない。順調に第3次予選をこなし、準決勝のコールを聞くに至った。もうあとは祈る気持ちのみ。決勝のコールを受けて、もう感激のみ。8組の戦いの掲示版を必死に見つめる。優勝の東京Aから順々に掲示されていく。5位に目が釘付け。「静岡県」の文字が浮かび上がる。もう全員喜び爆発。舞い上がって有頂天。表彰式では一人づつメダルを授与される。ずっしり重い感触。喜びの余韻で長居をしてしまい、係員の撤収した暗い道を意気揚々と引き揚げる。

夕食は街中に出た乾杯。全員静岡県ユニフォームを着用し、誇らしげな良い顔をしている。このユニフォームは大切に保管して再来年の栃木大会で着用しようと心に誓った忘れられない夜であった。

(乱文、雑文なること平に乞御容赦)。